ふるさと御所
文化財探訪

⌘番外編⌘

# 京奈和自動車道 玉手地区の発掘調査(2)

## 縄文時代晩期の土器棺墓などを検出

生涯学習課 文化財係
☎内線６９６

教育委員会では、京奈和自動車道建設に伴って工事前の文化財発掘調査を行っています。ＪＲ玉手駅の北側では、昨年４月から本掘調査を始め、これまでに弥生時代前・中・後期と長期にわたる水田遺構を検出しています。その成果の一部は昨年10月号の『広報ごせ』でも紹介しました。最も古い水田の年代は約２５００年前にさかのぼりますが、その後さらに調査を進めると、水田の下層に約２８００年前ごろの縄文時代晩期末（口酒井式期）の土器棺墓などが造られていたことが判りました。

土器棺墓とは、**写真１**のように地面に穴を掘って高さ40㎝ほどの土器を埋めるものです。土器の中には遺体を入れますが、骨などは残っていませんでした。この程度の大きさでは大人の遺体は入らず乳幼児の墓とみられますが、大人の場合には骨だけを改葬することも考えられます。このような土器棺墓が南北60ｍ程の範囲に20基も検出され、ほかにも土を掘って直接遺体を埋葬する土壙墓14基が見られました。狭い範囲に密度高く墓を造っていることがこの遺跡の特徴と言えるでしょう。

また、墓以外にも周辺部に柱穴や焚き火の痕跡（地床炉）がありました。これらは、当時何らかの建物があって人が生活をしていた証拠です。このほか、類例が少ない遺構としては**写真２**のサヌカイト集石土坑がありました。サヌカイトは二上山などで採れる石で、硬質で矢尻やナイフなどに加工して利用されます。ここには、そのような製品になる前の石が１３７点も埋められていました。後で取り出して加工できるように隠していたのでしょうか。

このほか、特徴的な遺物として**写真３**の土偶や**写真４**の糸玉がありました。土偶は12点が出土しました。写真のものはほぼ完形ですが、多くは頭部・半身・腕部・脚部だけの出土です。祭祀行為の過程で人の形をした土偶が壊されたものと思われます。また、糸玉は墓地から少し離れた地点で出土しました。植物の繊維を合わせて束を作り、さらに水銀朱を使った赤漆を塗っていました。装飾品として作られたものですが、全国でも十数例しか類例がない珍しいものです。

このように、玉手地区の発掘調査で多くの遺構・遺物が検出されました。一般に西日本では縄文時代の遺跡の数自体が少ないこともあり、今回の発掘では、これから縄文時代の社会像を考えていくうえで重要な成果を上げることができました。

写真１　土器棺墓

写真２　サヌカイト集石土坑

写真３　土偶出土状態

写真４　赤漆を塗った糸玉

## 編集後記

近所の人にデジタルアンプを一週間貸してもらって試聴した。コンパクトで頼りない外観とは裏腹に、圧倒的なスケールの音が鳴り出し、度肝を抜かれた。とにかく音が緻密で分解能が高い。オーケストラの各パートの音が明瞭に耳に迫ってくる。そして豊かで量感のある重低音。生々しく艶やかな中高音。今までラックの片隅で日の目を見なかったエルガーのチェロ協奏曲のＣＤは、このアンプによってその内包する魅力を再燃させた。物悲しげな旋律を奏でるデュ・プレの情熱的なチェロにすっかり陶酔してしまい、夢見心地の30分間が過ぎていった。(久)

広報ごせ
2010. 3

★公共の場等では禁煙・分煙の徹底を★　子どもたちや妊婦、非喫煙者等を受動喫煙の被害から守ろう！